

情報共有 3枚 (非管理X已)
宮邸班、NISA、IEC プレス対応チーム

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 7 月 6 日 (水) 11:00~11:45

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 30 名 (カメラ 4 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (7月6日 6:00 現在)
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果 (7月6日)
- ・ 福島第一原子力発電所 3号機 窒素封入接続箇所の高所作業車による調査について

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. サブドレン水核種分析結果において、③プロセス主建屋南東でセシウムの値が上昇しているがこの理由は。

A. これまでも5月30日、6月13日に同様の上昇を確認している。サブドレン付近でガラの混入や雨の影響を受けているものと想定しているが、引き続き経過を観察してまいりたい。

Q. 7月5日は雨が降ったのか。

A. 夜は降ったようであるが、大雨ではない。

Q. 4号機使用済燃料プール冷却浄化系バルブの閉作業は、20Aについてはガレキがあるため作業困難と想定していたと思うが、問題なく作業できたのか。

A. 当該場所についてはガレキがあることを事前に確認していたが、実際には手で払える程度の量であった。また弁そのものはジグを回転させることで開閉を行うが、特段問題なく実施できた。

Q. 実際に操作を行い、弁が閉まったことを確認できたのか。

A. その通り。

Q. 4号機使用済燃料プールの冷却工程の今後の作業スケジュールは。

A. 現時点で未定。燃料プール冷却浄化系バルブと繋がっている曲がった配管は取替える予定。弁を閉めることができたので、サイフォン効果によりプール水が漏れる可能性はなくなった。現在交換手段を検討しており、目標としては、7月下旬までに冷却を開始したい。

Q. 3号機建屋1階の線量測定は既に開始したのか。

A. 既に現場に入っているが、正確な時刻は不明。

Q. 4号機使用済燃料プール冷却浄化系バルブ20A、20Bを閉める目的は。

A. プールへ注水する側の配管を取り替える予定であり、その際に万が一プール水がサイフォン効果により漏えいしないようにバルブを閉める。

Q. 循環注水冷却装置のバッファタンクは7mまで到達して移送をやめたとのことだが、タンクの高さは何mあるのか。

A. 高さ11mであるが、7m以上に水位を上げないようにしている。

Q. 7m水位の場合の水量は。

A. 924m³。

Q. 本日、海江田大臣が記者会見の中で全国の原発にストレステストを実施するとの発言があったが、東電も実施する予定はあるのか。

A. 今後原子力安全・保安院との調整になると思うが、現時点で具体的な内容は伺っていない。おそらく対象はKKになると思う。

Q. 3号機1階での窒素封入接続箇所の状況把握とは具体的に何をするのか。

A. 使用予定の配管が水素爆発の影響を受けていないかどうかを確認する。接続口は予備配管を検討しており、配管端部の確認を行う。

Q. 本日1日で確認作業は終了するのか。

A. その予定である。

Q. 3号機原子炉建屋1階での線量測定結果はいつ公表頂けるのか。

A. 明日の予定。線量測定、γカメラの測定結果を基に、今後のスケジュールを検討する。

Q. γカメラにより高線量が確認された場合の対応は。

A. 別の遮へい材を用いること、もしくは作業時間の短縮等を検討することになると思う。作業エリア真下までは鉄板を敷いていないので、その影響も評価する。

Q. 3号機の窒素封入はいつ頃から実施できそうか。

A. 明日(7日)線量の評価を行い、明後日には作業のリハーサルを実施したいと考えている。その後、NISAから報告徴収が出ると思うので、安全の確認等を数日間実施し、NISAに報告した上での封入作業になる。

Q. 本日はPackbotも既に入域したと言うことか。

A. Warriorも含め、すべて遠隔操作で入域している。

Q. 先日、細野大臣が閣議後の会見で、3号機原子炉建屋内の線量が高く17日までに窒素封入が間に合わない場合、水素爆発を起こさない別の方法を考えると言っていたが具体的な策はあるのか。

A. 格納容器南西側を接続箇所として可燃性ガス濃度制御系の試験用タップが使用できるか確認してまいりたい。当該系統が使用できなかった場合、3号機格納容器内はほぼ大気圧であるという状況も踏まえ、窒素封入の必要性、水素爆発の可能性を考慮して対応を検討してまいりたい。

Q. 1号機原子炉建屋カバーの搬送後の作業について、荷揚げ後、本日はどこまでの作業を実施するのか。

A. まだ1段目の部材を荷上げた段階でそのまま仮置くと思う。

Q. 1号機原子炉建屋カバーについて、どのような部材を搬送したのか。

A. 35トンある5m×5m×60cmの基礎版2個を運んでいる。

Q. すべての部材が1Fに来るのはいつ頃になるのか。

A. 未定。物揚場のスペースが空けば次の部材を持ってくる。

Q. 62部材の内の2部材が1Fに来たと言うことか。

A. その通り。

Q. 2, 3号機からプロセス主建屋への移送量に変化はないのか。

A. 2号機は20m³/hポンプ1台、3号機も20m³/hポンプ1台で移送している。

Q. プロセス主建屋の汚染水の処理量はどのように計算しているのか。

A. ポンプの処理量、もしくは水位の変化量で確認している。

Q. ストレステストを実施するとすればKKと考えている理由は、全原子力発電所が対象ではないのか。

A. 1F、2Fについてはまずは安定的な冷却、もしくは設備の復旧が必要と考えている。KKは4台が運転中、3台が定期検査中なので、その他全国の原子力発電所と同じような状況だからである。

Q. サブドレンに雨が降ったのは何時頃か。

A. 一昨日の夜に天気予報で雨が降ると聞いていた。昨日朝、発電所の報告では雨が降ったとの報告があった。

Q. どのくらいの線量のガラが落ちるとどのくらい放射能濃度が上がるといった評価はしているのか。

A. していない。

以上